

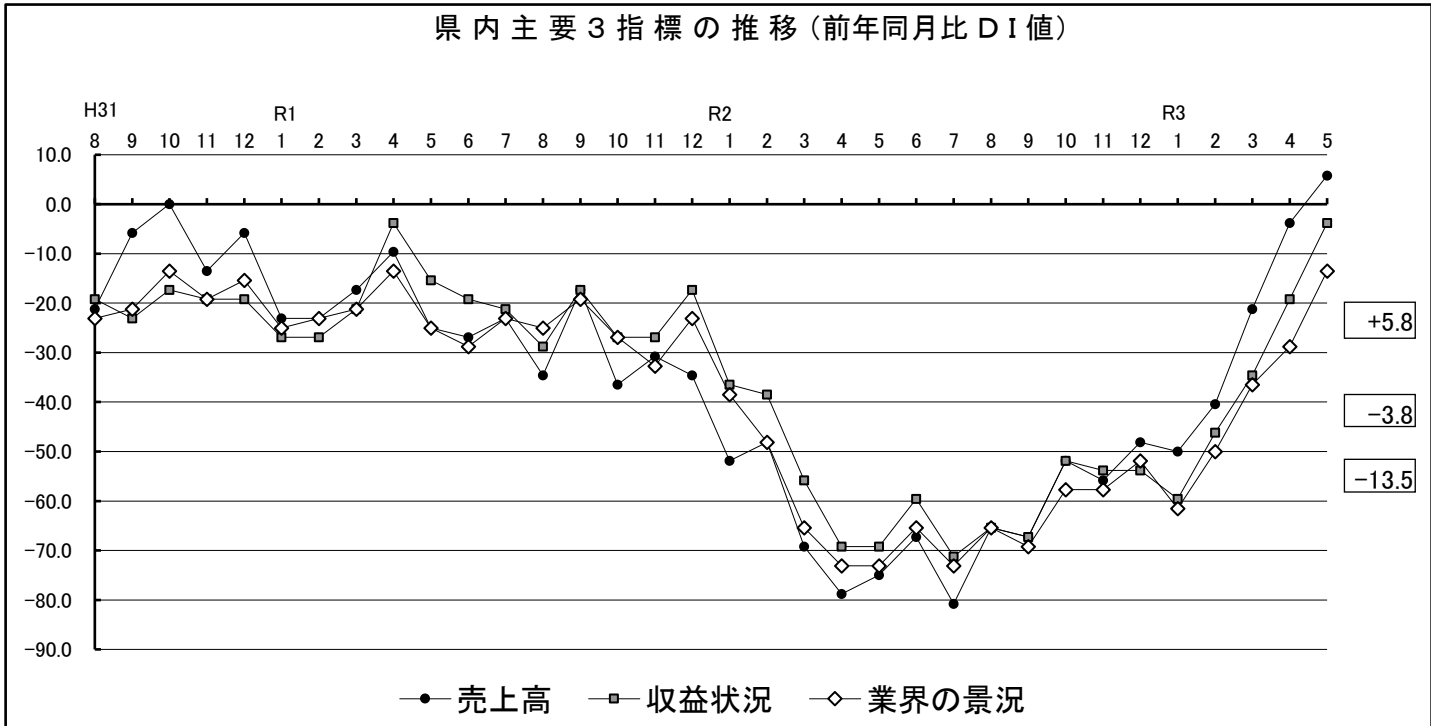
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年5月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標全てが上昇。4ヶ月連続で回復傾向にあるが、先行きの見通しは依然として厳しい。
- 製造業で「繊維・同製品」「木材・木製品」、非製造業で「小売業(飲食業)」で特に厳しい状況。
- 一部に前向きな報告も増えつつあるが、予断を許さない状況に変わりはない。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+5.8	+9.6	-14.1	-0.4
収益状況	-3.8	+15.4	-28.8	+0.3
業界の景況	-13.5	+15.3	-31.7	+1.8

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より9.6ポイント上昇し、5.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.4ポイント低下し、-14.1ポイントとなった。

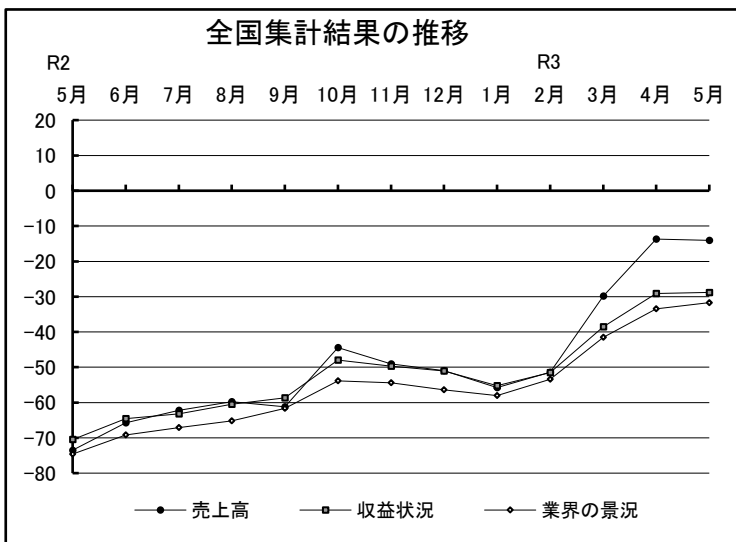
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より15.4ポイント上昇し、-3.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.3ポイント上昇し、-28.8ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より15.3ポイント上昇し、-13.5ポイントとなった。全国においては、前月より1.8ポイント上昇し、-31.7ポイントとなった。

全国集計結果の推移



## -概況-

5月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中すべてが上昇。主要3指標は「売上高」が9.6ポイント上昇、「収益状況」が15.4ポイント上昇、「業界の景況」が15.3ポイント上昇となった。しかし、未だ原材料の高騰・部品の調達不安等の声（特に木材・木製品業）も出ており、コロナ第5波の懸念や新たな変異株、ワクチン接種時期が未だ不透明などの不安要素が多く、先行きの見通しは依然として厳しい。

業種別・指標別にみると、製造業・非製造業共に、主要3指標全ての上昇が見られた。しかし、「木材・木製品」は「在庫状況」が-75ポイント、「繊維・同製品」は主要3指標がすべて-50ポイントと厳しい数値を示している。非製造業全体では、主要3指標が数ヶ月連続で上昇したが、「小売業（飲食業）」や「サービス業」等では依然としてマイナス状態が続いている。

5月に関しては、昨年同時期に比べると国内外でワクチン接種が進み、一部にコロナ禍前の状況に少しずつ戻ってきているとの前向きな報告も増えつつある。これは、コロナ禍で大きく変化したビジネスに各業界の経営努力による悪化回避の動きが感じ取れる。しかしこれらはあくまで前年同月との比較であり、以前の水準に戻るには程遠く予断を許さない状況には変わりはない。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	0.0	25.0	25.0	-25.0	25.0	-25.0	0.0	0.0	0.0
繊維・同製品	-50.0	-25.0	0.0	-25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-50.0
木材・木製品	-25.0	-75.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	50.0	0.0	-75.0
印刷	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	-100.0	0.0
窯業・土石	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0
鉄鋼・金属	50.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	50.0
製造業	8.0	-16.0	12.0	-12.0	0.0	-8.0	12.0	-16.0	-16.0
卸売業	66.7	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0		0.0	66.7
小売業	-28.6	-28.6	14.3	0.0	-28.6	-28.6		0.0	-14.3
サービス業	0.0		-33.3	-50.0	0.0	-16.7		-16.7	-16.7
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	-20.0		-20.0	0.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	-75.0
その他	0.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		0.0	0.0
非製造業	3.7	-20.0	-3.7	-7.4	-7.4	-18.5		-7.4	-11.1
全体	5.8	-17.1	3.8	-9.6	-3.8	-13.5	12.0	-11.5	-13.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3年 1月	2月	3月	4月	5月	前月比
売上高	-75.0	-67.3	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	9.6
在庫数量	-5.7	-22.9	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	2.9
販売価格	-15.4	-13.5	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	7.6
取引条件	-26.9	-19.2	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	0.0
収益状況	-69.2	-59.6	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	15.4
資金繰り	-55.8	-51.9	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-3.9
設備操業度	-72.0	-56.0	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	24.0
雇用人員	-11.5	-19.2	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	0.0
業界の景況	-73.1	-65.4	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	15.3

## 特記事項

## 情報連絡員報告（令和3年5月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	昨年から比べると当然売上等は改善しているが、まだまだ厳しい状況。
あん類製造業	昨年度のコロナの状況下と比べると、業界の商品の動きは良くなっている。
縫製業	生産量が激変して休業する工場、時間短縮して何とか維持する工場等先行き不透明な状況。
染色整理業	持ち直し見えたが、コロナの第4波による影響が現れている。
網・レース・繊維粗製品製造業	昨年同時期に比べると問い合わせや受注状況は増えてきている。国内外でワクチン接種が進み、コロナ禍前の状況に少しずつ戻ってきているように感じる。特に海外の経済活動は以前の動きに戻りつつあるので、注目している。
一般製材業	今般の「ウッドショック」により在庫確保に苦慮している業者が多数敬見される。私見ではあるが本年度中に「ウッドショック」が改善されることは難しいと解する。
家具・建具製造業	いわゆる「ウッドショック」により、原材料である木材の調達が困難になっている。問題の長期化が懸念される。
建具製造業	引き続き、コロナ禍の影響で生産・販売など振るわない。又、「ウッドショック」と呼ばれているが、木質系資材の不足、高騰が顕著である。軒並み30%以上の値上げ提示がメーカー各社より届いている。さらに、入荷不順と入手難もつきまとう。
印刷業	コロナ禍の厳しい状況は続いているが、昨年同時期に比べると受注量も増加しているとの声も多く聞こえてくる。しかし一昨年度の数字には程遠く予断を許さない状況に変わりはない。また、新型コロナウイルスによってビジネスの世界が大きく変化していることも認識している。
石灰製造業	鉄鋼向けは、順調に出荷している。昨年に比べると増加傾向となっている。 肥料関係は、4月に前倒し出荷のため、減少傾向。 建材関係は、砕石、土質共に減少傾向。全体では、前年並みとなった。
金属製品製造業	家電（冷蔵庫）が増加。
金属製品製造業	自動車部品関連、機械設備関連、プレス金型関連とも業況は低下。主な原因は、コロナ禍による売上低下、人件費増加、人出不足。
一般機械器具製造業	令和3年5月の報告は前年同月と比較し、売上高等は同等の水準であり、収益悪化懸念もあるが、各企業の経営努力による悪化回避を行っている。操業度についても前年同時期の水準。現在、回復傾向の企業と悪化懸念の企業とがほぼ同数である。
一般機械器具製造業	前年同月に比べれば売上も増加し収益状況も改善してきているが、一昨年水準には達していない。
一般機械器具製造業	製造業は半導体不足の影響で若干こう着状態になっている。建設業界は、相変わらず人手不足で困っている。介護関係は、留学生などの特定活動申請で補う動きがある。しかし、この人たちは自由度が高いので定住する心配がある。

各種商品卸売業	当団地組合では、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているが、全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ改善の傾向にある。組合員はそれぞれコロナ禍にしっかり対応している。
食肉小売業	海外食肉の輸入量が前年比 80%で、回復が見えない状況。コロナ感染で政府の補助金が給付されたが、ワーキングホリデーの短期ビザの働き手が帰国したまま再入国出来ないため、ワーカー不足で生産できず価格が高騰している。仕入れは高く売れない状況。
中古自動車小売業	昨年のコロナの影響からすると好転しているが、一昨年までは戻っていない。新車の納めが遅れて来ている（半導体不足の影響か？）ので中古車の玉不足が心配。
各種商品小売業	コロナ禍の中での 5 月期はやはり厳しい月となった。飲食・物販店共に 20%～27%減と聞いています。人も少なく 6 月期も期待できるかどうか。
各種商品小売業	前年比だと大幅に回復したが、一昨年比で見るとまだまだ厳しい状況は続いている。限界が近づいている。
花・植木小売業	期待の大きな「母の日」は昨年同様、お客様、店舗スタッフ、花の物流など様々なことを考慮して「母の月」とし、月末まで母の日関連商品を販売した。今年の「母の日」は実店舗の販売もよかったが、カタログやインターネットでの販売も好調で、昨年対比で伸びたところが多かった。今期の現状をしっかりと分析をして、来年の販促につなげたい。
理容業	相変わらずの顧客減少により収益の減少、又後継者不足も加わり、高齢組合員は止むを得ず廃業を選択する方も多くなっている。
自動車整備業	操業度の上昇は見られたが、売上単価の減少により売上高は減少した。
旅館・ホテル	（宿泊）東京都が再度緊急事態宣言となった。市内全域のホテル稼働率は平均 50%にも届かない状況。緊急事態宣言が再度延長となり先行き不透明感が増している。（宴会）新型コロナウイルス感染拡大により 100%ダウン。（飲食店）飲食店利用はまだまだ非常に厳しい状況。第 4 波と変異株も懸念されており先行きが見通せない。
ビルメンテナンス業	福祉施設に特殊浴槽を販売するなど、売上が増加した。人件費や消耗費等が少し減少し、収益が好転している。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあり、既存の売上高は前年同月より少し減少しているが、新規事業である惣菜の製造販売により、増加傾向にある。しかし、このまま新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
内装工事業	新年度に入り 2 か月が経過するも、依然として新型コロナウイルス感染拡大による景気の落ち込みが内装業界にも影響しており、昨年同月並み同様の売り上げ状況となっている。昨年実施できなかった総会を今回は実施したものの、依然として不透明は続いている。
建設業	鳥インフルエンザが県東部で、熱豚が県北部で発生し、埋却処分等の作業は建設業界が対応することとなるため、当組合でも危機感高まりの対応体制について準備を進めている。
貨物軽自動車運送業	GWの期間は大手携帯電話メーカーの配達があり、それなりに慌ただしかったが、全体的にみると企業からの受注は減少傾向にある。個人のお客様から大型家具・家電のみの配送依頼が増えてきている。今年に入って脱退・廃業する組合員が 0 人である現状ではありますが、厳しい状況である事もしっかり受けとめ、健全な事業運営を持続していく。
一般乗用旅客自動車運送業	昨年 5 月末からコロナ厳重警戒が発令され、事業者も休業をするなど売上は皆無状態。今年もコロナ禍の中、人流は減っているが近距離のお客様のご利用が少し出ている。ワクチン接種が進み、少し安心して生活が出来るようになれば、もう少しタクシーご利用のお客様も増えてくると思う。
大谷石採石業	組合員では多少受注がある。